

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520550

研究課題名(和文) 日本古代の駅伝制と官道の研究－駅制研究支援データベースの構築

研究課題名(英文) Research of the Japanese Ancient Road

研究代表者

中村 太一 (NAKAMURA TAICHI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：50333654

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：交通史、歴史地理学、考古学、データベース、駅伝制、条坊制、条里制

#### 1. 研究計画の概要

①駅伝馬制度の変遷、②計画道路体系の変遷、③総合的な通路体系の復原、④衛星観測データを用いた交通遺跡の検出方法に関する研究を行うことで、7～9世紀における日本古代国家交通システムの制度・実態とその変化を明らかにする。

また、⑤駅制に関するテキストデータと、駅家と駅路に関する地図画像データをリンクさせた、「駅制研究支援データベース」の開発に取り組む。

#### 2. 研究の進捗状況

(1)令制国制成立の前提に伝馬制が、令制国堺や国府成立の前提に計画道路の存在があり、駅伝制と令制国制の形成過程に関連性があったこと。また、桓武朝に行われた駅伝馬制度の変革により、駅伝制がネットワークとして脆弱になった結果、9世紀以降、駅制崩壊の連鎖反応が進行したこと、などを明らかにした。

(2)平城京南端部の条坊制地割、条里制地割と、計画道路の相互関係について研究した。

(3)風土記によって駅路以外の交通路の概要が分かる出雲国を事例に、伝馬路・伝路の復原方法を検討した。

(4)衛星観測データにより、中国隋唐代の大運河について痕跡を検出した。

(5)駅制に関するテキストデータを入力した。

#### 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

特に「駅制研究支援データベース」の開発

が遅れている。これは、申請時の予想を大幅に超えて教育や運営などに関わる大学内外の仕事が増加した結果、本研究に集中して取り組む時間があまり確保できない状況に陥っているためである。

#### 4. 今後の研究の推進方策

「駅制研究支援データベース」の開発について本研究では、基礎的なデータの入力に集中し、研究年度終了後に自らの研究課題として継続的に取り組む。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①中村太一、遣唐使の道―大運河を中心に―、専修大学東アジア世界史研究センター年報、第2号、21～40頁、2009年、査読無

[学会発表] (計1件)

①中村太一、駅伝制と令制国制―形成とその関連―、島根県古代文化センター「出雲国の形成と国府成立の研究」第4回共同検討会、2008年8月26日

[図書] (計1件)

①倉田実久保田孝夫編・中村太一など計28名執筆、王朝文学と交通〈平安文学と隣接諸学7〉、竹林舎、総632頁、2009年